

漱石晩年の境地「則天去私」を引き出した作家
その文学と書画

生誕130年

松岡讓

「そんならお前はどうかあつても坊主になつて、俺のあとを継ぐ気はないといふんだな。」
父は本堂の勤行から下向して来て、水色の晨朝袈裟を荒々しく衣桁に脱ぎかけ乍ら、子に向つてとげ／＼した詰問的の言葉を浴せかけた。父の目には怒の炎がきら／＼燃え立つて、子を執念深く突き刺す程に睨めつけてゐた。その態度の中には、最早親として子を叱るといふやうな、謂はゞきつい言葉の裏に暖い愛情を縫ひつけておくと言つた風な、生やさしい分子は微塵もなかつた。徹頭徹尾髓の中まで噛みつぶしたい程の憎しみで埋まつてゐると言つたせつばまつた様子であつた。

子は子で父の全身的な攻撃を、まるで石のやうに構へて受け渡してゐる。彼の顔つも謙遜以

松岡讓『法城を護る人々』上巻 第一書房 1923(大正12)年 冒頭より

タイアップ展開催!



DMM GAMESにて好評配信中の文豪転生シュミレーションゲーム「文豪とアルケミスト」に登場するキャラクター、松岡讓の等身大パネルを展示します。

©2016 EXNOA LLC

2021

7.27 火 — 11.3 水祝

※会期中、一部展示替えがございます。また、資料保護のため、会期中に自筆資料の一部を複写パネルと入れ替えます。(前期展示:7/27~9/12、後期展示:9/14~11/3)

開館時間 10:00 — 18:00 (入館は 17:30 まで)
休館日 月曜日 (8/9、9/20 は開館)、8/10 凶、9/21 凶
入館料 一般 500 円、学生〔高校生以上〕 300 円、中学生以下無料
※ 20 名以上の団体は、各料金から 2 割引き
※ 無料開館日: 9/28 凶 (松岡讓生誕記念日)、
11/3 水・祝 (文化の日)

※ご来館の際は、検温やマスクの着用等にご協力お願いいたします。
開催予定に変更が生じる場合は当館ウェブサイトや Facebook でお知らせいたします。

主催 にいがた文化の記憶館、新潟県、
公益財団法人 新潟県文化振興財団、新潟日報社
共催 新潟日報美術振興財団、BSn新潟放送、NHK新潟総合テレビ
協力企業 田村紙商事株式会社
展示協力 半藤末利子氏、本覺寺、新宿区立漱石山房記念館、
長岡市立中央図書館、長岡ペンクラブ

生誕130年

松岡讓



1957-58(昭和32-33)年頃の松岡讓 写真提供：本覺寺

小説家・松岡讓(1891-1969年)は、新潟県古志郡石坂村(現長岡市)、真宗大谷派の本覺寺の後継ぎとして生まれました。長岡中学校(現長岡高校)では詩人・堀口大樹と同級でした。寺の後継を拒否して上京、進学先の東京帝国大学哲学科で芥川龍之介や久米正雄らと交流し、彼らの手引きで漱石山房を訪ねて夏目漱石の門人となり、漱石から「越後の哲学者」と呼ばれました。松岡は芥川、久米、成瀬正一、菊池寛らと共に漱石を第一の読者とするための同人雑誌、第四次『新潮』を創刊します。卒業後、漱石の長女・筆子と結婚しましたが、筆子に恋していた久米が小説『破船』で友情を裏切った人物として松岡を描いたため、文壇をはじめ世間から孤立、しばらく沈黙します。失意の松岡を立ち直らせたのが、長編小説『法城を護る人々』の大ヒットでした。寺院の跡取りとして生まれた松岡の父親との葛藤から始まり、俗化した寺院生活への痛烈な批判、真実の信仰とは何かを問うことにより、当時の宗教界の腐敗へ厳しいまなざしを向けた半自伝的小説でした。この問題作を世に出したのは、同郷の出版人・長谷川巳之吉の「第一書房」でした。『法城を護る人々』はベストセラーとなり、佐渡出身の哲学者・土田杏村に「明治大正が持った最大の宗教文芸」と絶賛されました。松岡の著書はほかに『憂鬱な愛人』、『敦煌物語』があります。また、生涯にわたって師であり岳父でもある漱石の研究に力を注ぎ、『漱石先生』、『漱石の漢詩』などの著作も残しました。

本展では、松岡讓の著書や原稿などの資料を展示します。また、度々個展を開き新潟県書道協会創立時に顧問を務めるなど、その分野でも多才ぶりを発揮した書画作品も紹介します。



松岡讓『法城を護る人々』上巻 第一書房 1923(大正12)年 当館蔵



芥川龍之介 松岡讓あてはがき 1917(大正6)年11月13日付 新宿区立漱石山房記念館蔵 松岡讓が書いた「法城を護る人々」を力作だと褒めている。



松岡讓《則天去私》個人蔵 長岡市郷土史料館寄託 「天に則り私を去る」。夏目漱石が晩年に文学・人生の理想とした境地。

「文豪とアルケミスト」タイアップ展開催!

展示室内に、人気ゲーム「文豪とアルケミスト」のキャラクター、松岡讓の等身大パネルが登場します。キャラクターパネルは写真撮影OKです!(カメラは各自でご用意ください。)さらに、企画展をご覧になった方で、ご希望の方にはノベルティ(オリジナルしおり)をプレゼント!数に限りがございますのでお早めにご来館ください。

※ノベルティの第三者への転売やオークションでの転売を禁止致します。
©2016 EXNOA LLC

松岡讓・夏目漱石 関連グッズを販売します!

展示室受付にて、松岡讓や夏目漱石の関連グッズを販売します。

商品の一例:ポストカード各種 110円、一筆箋 300円、漱石山房メモ帳 300円、ミニトート 800円(グッズ提供:新宿区立漱石山房記念館、芸亭堂)また、松岡讓や半藤末利子氏の著書(文春文庫版)も販売します。ぜひこの機会にお求めください。 ※売り切れの際はご了承ください。



松岡讓『良寛と漱石』原稿 新宿区立漱石山房記念館蔵 1942(昭和17)年4月17日~20日に新潟県中央新聞に連載された。



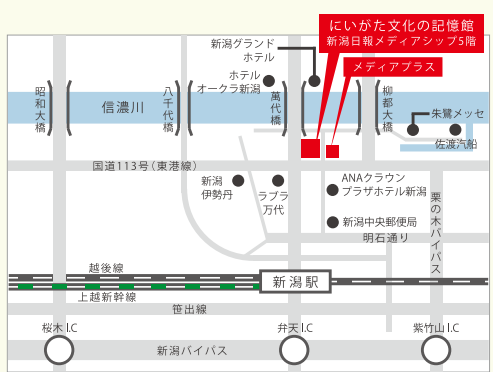
松岡讓著、津田青楓装幀『憂鬱な愛人 上』(並製) 第一書房 1928(昭和3)年 新宿区立漱石山房記念館蔵

担当学芸員による解説会
8/14 国、9/11 国、10/16 国
各回 14:00 ~ 15:00 (予定)
申込不要/要当日観覧券

[次回の企画展示]
反骨の日本画家・尾竹竹坡
2021.11/23 [火・祝] ~ 2022.3/6 [日]

※新型コロナウイルスの感染拡大状況により、開催内容に変更が生じる場合があります。

- 交通のご案内
 - 新潟駅から タクシー約5分 / 徒歩約15分
 - 新潟空港から タクシー約15分
- メディアシップ第1・第2駐車場(24時間営業)のご案内
 - 第1駐車場 [メディアシップに隣接]: 約60台
料金 220円 / 30分 (夜間最大1,000円)
 - 第2駐車場 [メディアプラスに隣接]: 約90台
昼間料金 200円 / 30分 (昼間最大700円)
夜間料金 200円 / 60分 (夜間最大300円)
- 【メディアシップ第1・第2駐車場限定サービス券発行について】
入館料以外に1,000円(税込)以上のお会計で1時間サービス券、3,000円(税込)以上のお会計で2時間サービス券を発行します。



NMMC にいがた文化の記憶館 025-250-7171
http://nmnc.jp/

〒950-0088 新潟市中央区万代3-1-1
新潟日報メディアシップ5階
開館時間: 10:00 ~ 18:00 (入館は17:30まで)
休館日: 月曜(祝休日の場合は翌日)
【エレベーターの運転時間について】
開館時間以外はメディアシップのエレベーターは5階に止まりません。ご来館の際はご注意ください。

割引券
一般・学生
料金
(切取不可)

『法城を護る人々』は力作だと思ふ / 自然描写は輪奐の美を極めてゐるね
芥川龍之介
松岡讓宛てはがきより